DEH-P510

CD／チューナー／WMA／MP3／WAV対応メインユニット

取扱説明書

目次　４ページ

carrozzeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

■ 表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

	警告	この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
	注意	この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

■ お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。
	このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。
	このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

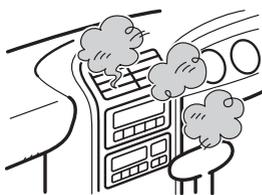
安全上のご注意（別冊の「安全上のご注意」もお読みください。）

⚠ 警告

[異常時の処置]

故障のまま使用しない

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない

万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起こりましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

[使用方法]

運転中に操作をしない

画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

目次

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

CDを聞く

ラジオを聞く

音を調節する

CONTENTS

初期設定

便利な機能

その他（付録）

すぐに使いたいときは、ここをお読みください。

すぐ使えます ここだけ読めば

本書のみかた

お買い上げ後すぐにお使いになりたいときは、**「ここだけ読めばすぐ使えます」**の項目をお読みください。CDプレーヤーやラジオなどの基本的な操作方法を説明しています。

基本操作以外の便利な機能については、**「CDを聞く」**や**「ラジオを聞く」**、**「音を調節する」**など、それぞれのソースの項目をお読みください。

ページ内の構成

本書は、操作方法を手順にそって説明しています。ページ内の構成は、下の図のとおりです。

注意マーク

安全のために、必ず守っていただきたいことです。本機を操作するときの注意事項や、性能を維持するための注意事項について説明します。

用語説明マーク

操作や機能などの用語について説明します。

メモマーク

操作上のヒント、便利な使い方などについて説明します。

CDマーク

CDを再生するときの操作方法を説明します。

CD-ROMマーク

WMA／MP3／WAVファイルを再生するときの操作方法を説明します。

マルチCDプレーヤーマーク

別売のマルチCDプレーヤーを本機に接続して使用するときの操作方法を説明します。

はじめに 2 本機の特長

本機のおもな機能

CDプレーヤー

CD再生

音楽用のCD／CD-R／CD-RWを再生できます。

WMA／MP3／WAV再生

WMA、MP3およびWAVファイルが記録されたCD-R／CD-RW／CD-ROMの再生に対応しています。ディスクは、ISO9660のレベル1、およびレベル2、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたディスクが再生可能です。

(☞その他 ❻ 60ページ)

マルチCDプレーヤー対応

別売のマルチCDプレーヤーに入れた複数枚のCDから、聞きたいCDを選んで曲を再生できます。

FM／AMラジオ

FM／AMラジオを受信します。お好みの放送局を本体に登録することもできます。

ファンクション機能

CDプレーヤーで曲を再生中はリピート再生やランダム再生、ラジオ受信中は放送局の自動登録などのように、ソース（CDやラジオなど）に合わせて便利な機能を使えます。ファンクション機能を使うときは、ファンクションボタンを押して機能を選んで行います。

オーディオ調節機能

本機から出力される音を、お好みの音に調節します。音の調節は、オーディオボタンを押して行います。

その他の機能

時計を表示したり、交通情報を手軽に受信したりするなど、ファンクションボタン以外のボタンを使った便利な機能を使えます。本機に接続した外部機器の設定を行う場合は、この項目をお読みください。

WMAについて

外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページhttp://www.mp3licensing.comをご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビをはじめ　とするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットをはじめとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機の電源がOFFのときでも、車のエンジンを止めた状態で長時間、車のイグニッションスイッチをON(またはACC)にしたままにしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。

バッテリーを交換するときは

車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。

本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。この場合、ラジオのプリセットメモリーは32ページ、時計調整は45ページを参照して、設定しなおしてください。

オーディオ調整については、再設定に時間がかかるため、設定内容をメモしておくことをおすすめします。再設定の方法は、それぞれのページを参照してください。

50枚型マルチCDプレーヤーの使用について

本機に、50枚型マルチCDプレーヤーを接続して、コントロールできます。ただし、本機では、50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能の操作はできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能だけです。また、タイトルリストには切り換わりません。

「CD TEXT」について

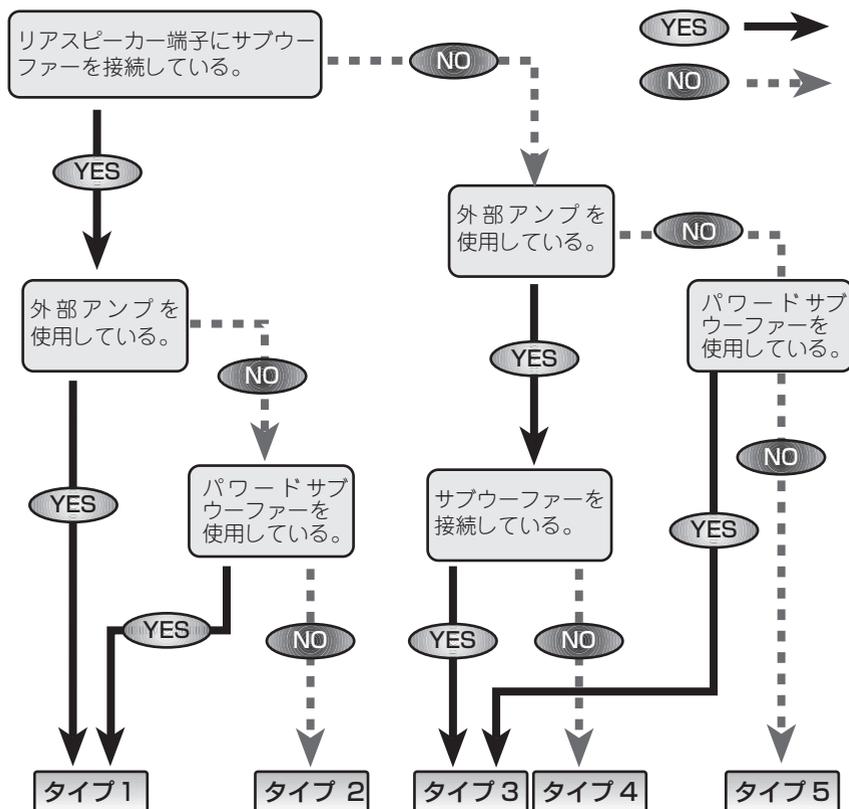
「CD TEXT」は、CDのタイトル/歌手名/曲名などの文字情報が収録されたCDです。ディスクタイトル面に下記のマークの付いているCDは、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)

タイトル表示について

本機の「CD TEXT」の文字表示は、英数字のみに対応しています。

はじめに 4 サブウーファーの設定について

本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができます。

サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。

タイプ1

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:S/Wにする
(☞初期設定❺47ページ)
2.オーディオ調節メニューで、SUB W:ONにする
(☞音の調節❽37ページ)
3.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
(☞音の調節 ❶34ページ)

タイプ2

1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:SWにする
(☞初期設定❺47ページ)
2.オーディオ調節メニューで、SUB W:ONにする
(☞音の調節 ❽37ページ)
3.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
(☞音の調節 ❶34ページ)

タイプ3

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:FULにする
(☞初期設定❺47ページ)
2.初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O:S/Wにする
(☞初期設定❻47ページ)
3.オーディオ調節メニューで、SUB W:ONにする
(☞音の調節 ❽37ページ)
4.微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
(☞音の調節 ❶34ページ)

タイプ4

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:FULにする
(☞初期設定❻47ページ)
2.初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O:FULにする
(☞初期設定❺47ページ)
3.オーディオ調節メニューで、SUB W:OFFにする
(☞音の調節 ❽37ページ)

タイプ5

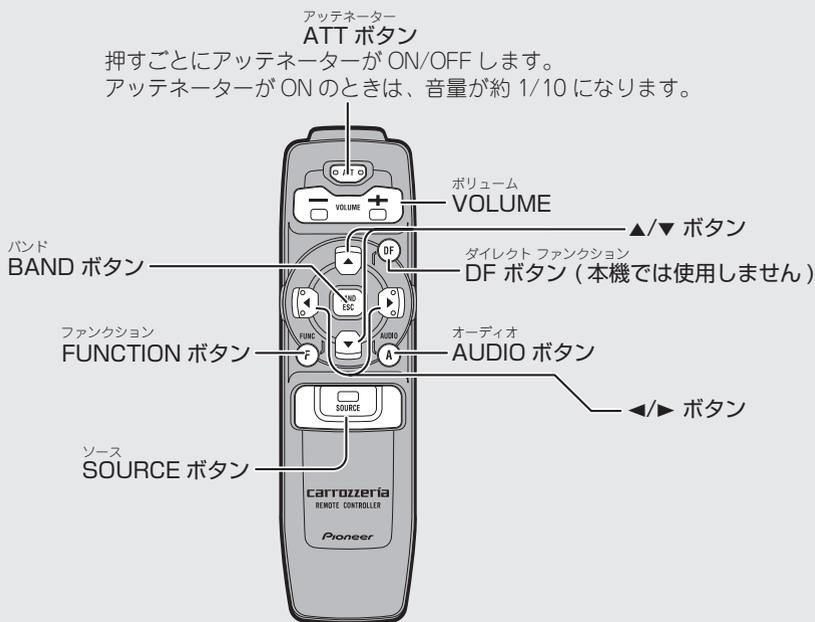
1.初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定をR-SP:FULにする
(☞初期設定❻47ページ)
2.初期設定メニューで、RCA外部出力の設定をP/O:FULにする
(☞初期設定❺47ページ)
3.オーディオ調節メニューで、SUB W:OFFにする
(☞音の調節 ❽37ページ)

はじめに 5

各部のなまえ

本体

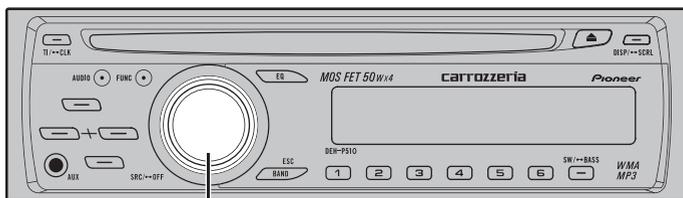
別売のリモコン「CD-R660」について

別売のリモコン「CD-R660」で、本機を操作できます。
リモコンの取り扱いについては、リモコンの説明書をお読みください。

メモ

- 別売のステアリングリモートコントロールユニット「CD-SR100」（以下、ステアリングリモコン）で本機を操作することもできます。ただし、この場合は、一部リモコンでは操作できない機能があります。
- ステアリングリモコンの操作のしかたや取り扱いについては、ステアリングリモコンの説明書をお読みください。

ここだけで1 基本的な操作 ● 電源を入れる／切る ● ソース切り換え

ここだけの操作で、音量調節やソース切り換えなどの基本的な操作を行うことができます。
使うボタンは、SOURCE／VOLUME です。

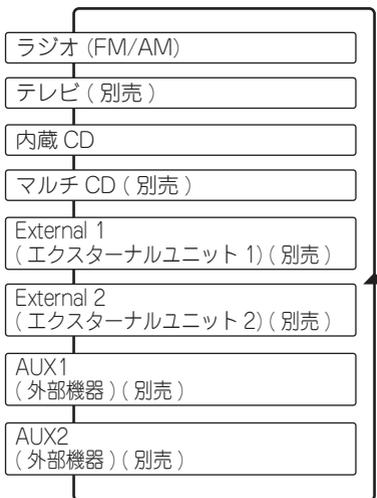
この操作で使用するボタン

ソース／ボリューム
SOURCE／VOLUME

1 SOURCE／VOLUME を押す

本機の電源が ON になります

2 SOURCE／VOLUME を押す

SOURCE／VOLUME を押すごとに、ソースが切り換わります。

切り換わる順番は次のとおりです。

ソース とは

● 内蔵CDやラジオ、マルチCDなどの音源のことを言います。

3 SOURCE／VOLUMEを回す

音量が調節されます

右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき

●音量は、0～62の範囲で調節できます。
●約4秒間、音量が表示されます。

4 SOURCE／VOLUMEを長く押す

本機の電源がOFFになります

External（エクスターナルユニット）とは

● 本機にソースとして認識されないパイオニア製品（将来発売される製品など）を、エクスターナルユニットと呼びます。本機は、エクスターナルユニットを計2台まで接続してコントロールできます。2台のエクスターナルユニットを接続した場合、それぞれのユニットはExternal1、External2ソースとして自動的に認識されます。表示は、どちらを選んだ場合も“EXTERNAL”になります。

メモ

● 接続していないソースには切り換わりません。
● ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
● AUX（外部機器）の設定 **(☞初期設定 ❹ 45ページ)** をONにしないと、AUXには切り換わりません。
● 本機の青リード線（オートアンテナ）に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。

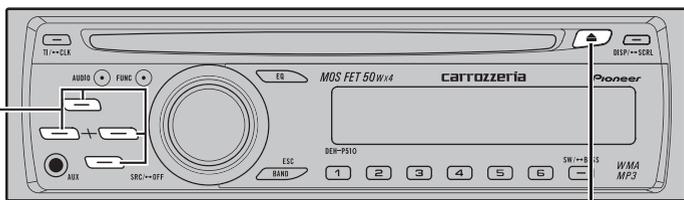
テレビを接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

テレビ（例：「AVX-P7」）の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

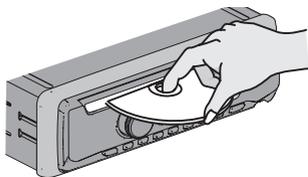
ここだけで2 CDのふだんの操作 ● CDを再生する ● フォルダー／ディスクを選ぶ

ここだけの操作で、内蔵CDプレーヤーに挿入したCDやWMA／MP3／WAVファイルを記録したCD-ROM、マルチCDプレーヤーに入れたディスクを再生できます。使うボタンは、(上)、(下)、(左)、(右) ボタン 、(EJECT) ボタンの5つです。

この操作で使用するボタン

上・下・左・右ボタン

イジェクト EJECTボタン

1 ディスクを挿入口に差し込む

自動的に収納されます

注意

- CD挿入口には、CD以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- CDはタイトル面を上にします。
- CDシングル（8cm CD）もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。

2 (上) または (下) ボタンを押す

CD-ROM　m-CD

フォルダーまたはディスクが選べます

前のフォルダーまたはディスクを選ぶ

：(上) ボタンを押す

次のフォルダーまたはディスクを選ぶ

：(下) ボタンを押す

知っていると便利

- WMA／MP3／WAVファイルを再生中に、BANDボタンを長く押すと、フォルダー01（ROOT）に戻ります。ただし、フォルダー01にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

知っていると便利

- マルチCDプレーヤーを再生中に、1〜6のボタンを押して、聞きたいCDを選ぶこともできます。7〜12枚目のCDを選ぶ場合は、1〜6ボタンを長く押します。

画面表示例（CD-ROM再生時）

* マルチCDプレーヤーでＣＤを再生しているときは、ディスク番号（例「D01」）が表示されます。
内蔵CDプレーヤーで通常のCDを再生しているときは、何も表示されません。

3 (左) または (右) ボタンを押す

■ 聞きたい曲を選ぶとき

前の曲を選ぶ：(左) ボタンを押す
次の曲を選ぶ：(右) ボタンを押す

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：(右) ボタンを長く押す
早戻し：(左) ボタンを長く押す

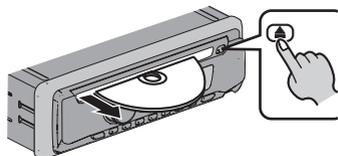
注意

● 選曲方法にROUGHを選んでいる場合、左または右ボタンを押すとラフサーチになります。

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

再生が終わります

5 (EJECT) ボタンを押す

ディスクが出てきます

注意

● 出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。CD挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。

知っていると便利

● ディスクをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます。
(☞ ここだけで ❶ 14ページ)
● WMA／MP3／WAVファイルと音楽データが混在しているディスクは、BANDボタンを押すことでWMA／MP3／WAVファイルと音楽データを切り換えて再生できます。切り換えた場合、1番目の曲から再生が始まります。

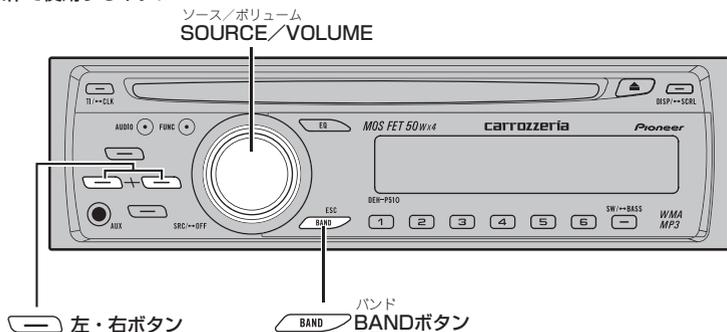
ここだけで3 ラジオのふだんの操作 ● バンドを選ぶ ● 放送局を選ぶ

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。使うボタンは、SOURCE／VOLUME、(BAND) ボタン、(左)、(右) ボタンの4つです。

この操作で使用するボタン

ソース／ボリューム
SOURCE／VOLUME

左・右ボタン

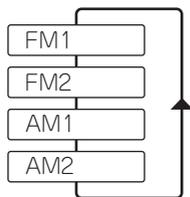
バンド
BANDボタン

1 SOURCE／VOLUMEを押す

ソースがラジオになります

(☞ ここだけで ❶ 14ページ)

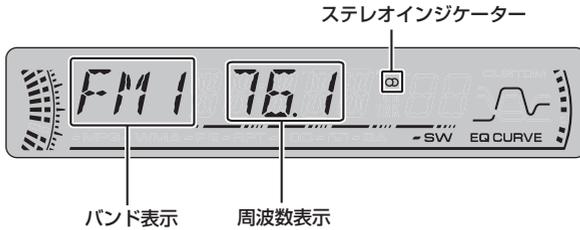
2 (BAND) ボタンを押す

ボタンを押すごとに、バンドが切り換わります

切り換わる順番は次のとおりです。

知っていると便利

● バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます。
(☞ ラジオ ❶ ❷ 32ページ)

● バンド1とバンド2のそれぞれに放送局を登録できます。たとえば、ふだんよく聞く放送局をバンド1に登録しておきます。旅行などで、どんな放送局があるかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを行えば、バンド1に登録した放送局はそのままで、新しい放送局をバンド2に登録することができます。

画面表示例

3 (左) または (右) ボタンを押す

放送局が選べます

■ 手動で選ぶとき (手動選局)

高い周波数の放送局を選ぶ
：(右) ボタンを短く押す
低い周波数の放送局を選ぶ
：(左) ボタンを短く押す

■ 自動で選ぶとき (自動選局)

高い周波数の放送局を自動で選ぶ
：(右) ボタンを長く押して離す
低い周波数の放送局を自動で選ぶ
：(左) ボタンを長く押して離す

知っていると便利

- ボタンを押し続けているあいだ、途中の放送局をとばせます。
- 電波の強い放送局を選ぶには自動を、電波の弱い放送局を選ぶには手動をおすすめします。

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

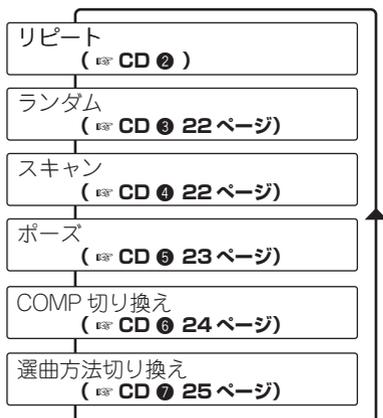
ラジオの受信が終わります

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションボタンを押して機能を選んで行います。

使いたい機能を選ぶ

1 ⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

⊙ (FUNCTION) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります

M-CD

メモ
- ふだんの再生画面に戻るときは、BANDボタンを押します。(約30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

繰り返し再生する

繰り返し再生（リピート）する範囲を選べます。リピート範囲は、CD再生時、CD-ROM再生時、マルチCDプレーヤー再生時でそれぞれ異なります。

⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

画面にRPTが表示されます
(☞ CD ❶)

2 ⊖ (左) または ⊖ (右) ボタンを押す

⊖ (左) または ⊖ (右) ボタンを押すごとに、次の順序で、リピート再生する範囲が切り換わります

CD

- DSC（ディスクリピート）
- TRK（トラックリピート）

CD-ROM

- DSC（ディスクリピート）
- TRK（トラックリピート）
- FLD（フォルダーリピート）

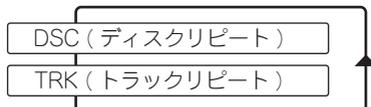
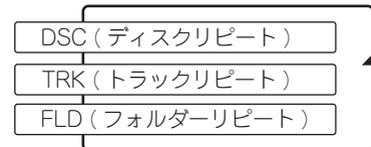
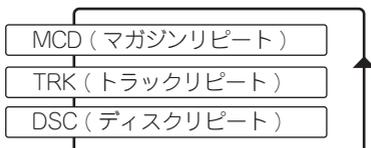
m-CD

- MCD（マガジンリピート）
- TRK（トラックリピート）
- DSC（ディスクリピート）

ディスクリピート：
今聞いているCDを繰り返し再生するときに選びます。

トラックリピート：
今聞いている曲を繰り返し再生するときに選びます。

フォルダーリピート：
今聞いているフォルダーを繰り返し再生するときに選びます。

マガジンリピート：
今聞いているマルチCDプレーヤーのマガジンを繰り返し再生するときに選びます。

3 BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD 3 違う曲順で再生する

ランダム

曲やCDを順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダム再生する範囲を選んでおく

リピート（☞ CD❷ 21ページ）で選んだ範囲でランダム再生されます

2 (FUNCTION) ボタンを押す

画面にRDMが表示されます

(☞ CD❶ 20ページ)

3 (上) ボタンを押す

ランダム再生がONになります

次の曲から、ランダムに再生します。

（下）ボタンを押すと、OFFになります。

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- トラックリピート中にランダム再生をONにすると、再生範囲が次のように切り換わります。
  CDまたはマルチCDプレーヤー再生時
  ：再生範囲がディスクリピートに切り換わってランダム再生します。
  CD-ROM再生時
  ：再生範囲がフォルダーリピートに切り換わってランダム再生します。

CD 4 曲／フォルダー／ディスクを探す

曲やフォルダー、ディスクの初めの出だしだけを、約10秒ずつ再生できます。
曲の出だしを聞いて、聞きたい曲やフォルダー、ディスクを探すときに便利です。

1 スキャン再生する範囲を選んでおく

リピート（☞ CD❷ 21ページ）で選んだ範囲で、スキャン再生されます。

■ 聞きたい曲を探すとき（トラックスキャン再生）

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中のCDの全曲を、約10秒ずつ再生します。

■ 聞きたいフォルダーを探すとき（フォルダースキャン再生）

WMA／MP3／WAV再生時に、再生範囲をフォルダーリピートに切り換えます。再生中のCDの全フォルダーの1曲目を、約10秒ずつ再生します。

■ 聞きたいディスクを探すとき（ディスクスキャン再生）

マルチCDプレーヤーでCDを再生中に、再生範囲をマガジンリピートに切り換えます。再生中のマガジンの全ディスクの1曲目を、約10秒ずつ再生します。

2 (FUNCTION) ボタンを押す

画面にSCANが表示されます

(☞ CD❶ 20ページ)

3 (上) ボタンを押す

スキャン再生がONになります

曲やフォルダー、ディスクの初めの約10秒間が次々に再生されます。

- スキャン再生を始めて約30秒たつと、自動的にふだんの再生画面に戻ります。

スキャン

4 聞きたい曲やフォルダー、ディスクが再生されたら、 (下) ボタンを押す

スキャン再生がOFFになります

● ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作を行ってもう一度スキャンを選びます。次に、 (下)ボタンを押してください。スキャン再生がOFFになります。

5 BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

● スキャン再生を始めた曲（フォルダー、ディスク）まで戻るとスキャン再生は解除されます。
● トラックリピート中にスキャン再生をONにすると、再生範囲が次のように切り換わります。
CDまたはマルチCDプレーヤー再生時
：再生範囲がディスクリピートに切り換わってスキャン再生します。
CD-ROM再生時
：再生範囲がフォルダーリピートに切り換わってスキャン再生します。

CD 5 再生を一時停止する

ポーズ

CDの再生を一時停止できます。

1 (FUNCTION) ボタンを押す

画面にPAUSEが表示されます

(☞ CD❶ 20ページ)

2 (上) または (下) ボタンを押す

再生が一時停止されます

もう一度、(上) または (下) ボタンを押すと、OFFになります。

3 BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD 6 音を聞きやすくする

再生しているCDの音質に簡単な補正をかけ、より聞きやすい音に調節できます。

● 内蔵CDプレーヤーで再生している場合

COMPとBMXの2つの機能を使って、CDの音質を手軽に調節できます。COMPはクラシックなど音量差の大きい曲を聞いているときに、BMXはWMAやMP3など圧縮された音楽を聞いているときに使用すると効果的です。

● マルチCDプレーヤーで再生している場合

COMPとDBEの2つの機能を使って、CDの音質を手軽に調節できます。COMPは内蔵CDのCOMP機能と同じ効果があります。DBEは、音楽の低音域を押し上げる効果があります。

COMPについて

● COMPとは、「Compression（コンプレッション）」の略です。大きな音と小さな音の音量差（ダイナミックレンジ）を抑える効果があります。小さな音が聞き取りにくいときにお使いになると便利です。

BMXについて

● BMXとは、「Bit Metrix（ビット メトリックス）」の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善する機能です。CDに録音する前の音質に近づけて再生できます。

DBEについて

● DBEとは、「Dynamic Bass Emphasis（ダイナミック バス エンファシス）」の略です。DBEは、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 ⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

画面に現在のCOMP／BMXの状態が表示されます

(☞ CD❶ 20ページ)

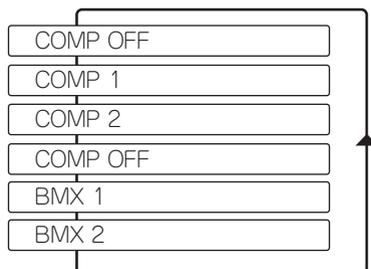
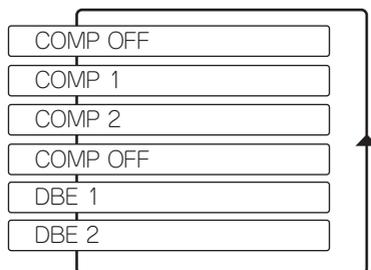
2 (上) または (下) ボタンを押す

(上) または (下) ボタンを押すごとに、次の順序でCOMP／BMXが切り換わります

CD CD-ROM

COMP OFF → COMP 1 → COMP 2 → COMP OFF → BMX 1 → BMX 2 → (COMP OFFに戻る)

m-CD

COMP OFF → COMP 1 → COMP 2 → COMP OFF → DBE 1 → DBE 2 → (COMP OFFに戻る)

注意

● COMP／DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、“NO COMP”が表示され、操作ができません。

3 BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

● COMP、BMX、DBEは1より2の方が効果が大きくなります。

CD 7

10曲飛びに選曲する

選曲方法切り換え

多くの曲（10曲以上）を収録しているディスクを再生中に、10曲飛びに選曲して聞きたい曲をおおまかに探すことができます。

⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

画面にFF/REVが表示されます

(☞ CD❶ 20ページ)

2 ▭ (左) または ▭ (右) ボタンを押す

選曲方法が切り換わります

10曲飛び選曲を選ぶ（ROUGH：ラフサーチ）
　：▭(右) ボタンを押す
早送り／早戻しを選ぶ（FF/REV）
　：▭(左) ボタンを押す

3 BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

4 ▭ (左) または ▭ (右)ボタンを長く押す

10曲ごとに選曲します

10曲先を選ぶとき
　：▭(右) ボタンを長く押す
10曲前を選ぶとき
　：▭(左) ボタンを長く押す

メモ

● 曲数が10以下のディスクでラフサーチを行うと、最初または最後の曲が選曲されます。残りの曲数が10以下のときにラフサーチを行った場合も同様になります。

CD 8

聞きたい曲を指定する

ITS指定

別売マルチCDプレーヤーを接続したときだけ、操作できる機能です。

聞きたい曲だけを再生するために、再生する曲をあらかじめ指定しておくことができます。

ITSについて

● ITSとは、「Instant Track Selection（インスタント トラック セレクション）」の略です。聞きたい曲を一時的に指定しておき、指定した曲だけを再生する機能です。ITSの指定は、ITS解除を行うまで有効です **(☞ CD ⑩⑪ 27ページ)**。

メモ

● 曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、CDの指定は解除されません。
● CD1枚につき、99曲まで指定できます。（「CDX-P1250」、「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDプレーヤーでは、指定できる曲数は24曲目までになります。）
● ITSは、タイトル入力 **(☞ CD ⑫ 28ページ)** と合わせて、CD100枚分の指定ができます。
● 100枚を超えたときは、一番古い指定内容が解除されて、新しいCDが指定されます。

1 ▭ (上) または ▭ (下) ボタンを押す

指定したいCDを再生します

(☞ ここだけで ❷ 16ページ)

2 ⊙ (FUNCTION) ボタンを長く押す

タイトル入力画面が表示されます

(☞ CD ⑫ 28ページ)

3 もう一度、⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

ITS指定画面に切り換わります

次のページへ続く

CDを聞く

<つづき>

ITS指定

4 (左) または (右) ボタンを押す

指定したい曲を選びます

(☞ ここだけで ❷ 17ページ)

5 (上) ボタンを押す

選択した曲が指定されます

「ITS IN」が2秒間表示され、指定が完了したことを知らせます。

6 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD 9 指定した曲だけ再生する

ITS再生

別売マルチCDプレーヤーを接続したときだけ、操作できる機能です。

ITS指定 **(☞ CD ❽ 25ページ)** で指定した曲だけを再生できます。

1 ITS再生する範囲を選んでおく

リピート (☞ CD ❷ 21ページ) で選んだ範囲でITS再生されます

2 (FUNCTION) ボタンを押す

画面にITS-Pが表示されます

3 (上) ボタンを押す

ITS再生がONになります

ITS指定された曲だけが再生されます。

(下) ボタンを押すと、OFFになります。

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD 10 曲の指定を1曲ずつ解除する

ITS解除

別売マルチCDプレーヤーを接続したときだけ、操作できる機能です。

ITS指定 **(☞ CD ❽ 25ページ)** で指定した曲を1曲ずつ解除することができます。

1 ITS再生をONにしておく

(☞ CD ❾)

2 (左) または (右)ボタンを押す

解除したい曲を再生します

3 ⊙ (FUNCTION) ボタンを長く押す

ITS指定画面が表示されます

4 (下) ボタンを押す

再生していた曲が指定解除され、次に指定されている曲が再生されます

現在の再生範囲に、ITS指定された曲がなくなった場合は、「EMPTY」が2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

5 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD 11 曲の指定をCDごとに解除する

ITS解除

別売マルチCDプレーヤーを接続したときだけ、操作できる機能です。

ITS指定 **(☞ CD ❽ 25ページ)** で指定した曲をCDごとに解除することができます。

1 ITS再生をOFFにしておく

(☞ CD ❾)

2 (上) または (下)ボタンを押す

解除したいCDを再生します

3 ⊙ (FUNCTION) ボタンを長く押す

タイトル入力画面が表示されます
(☞ CD ⓬ 28ページ)

4 もう一度、⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

ITS指定画面が表示されます

5 (下) ボタンを押す

再生していたCDが指定解除されます

「ITS CLR」が2秒間表示され、指定が解除されたことを知らせます。

6 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CD 12 CDのタイトルを入力する

CDのタイトルを入力できます。

注意

● 「CD TEXT」**(☞ はじめに ❸ 9ページ)** や、タイトル入力機能のないマルチCDを組み合わせたときは、操作できません。

タイトル入力について

● タイトル入力は、CDのタイトルを登録しておき、ディスプレイに表示させる機能です。

メモ

● タイトルは、8文字まで入力できます。
● 内蔵CDプレーヤーには、CD48枚分のタイトルを登録できます。
● マルチCDプレーヤーには、ITS **(☞ CD ❽ 25ページ)** と合わせて、CD100枚分のタイトルを登録できます。
● 内蔵CDプレーヤーにタイトルを登録する場合、48枚を超えたときは、一番古いCDのタイトルが消されて、新しいCDのタイトルが登録されます。
● マルチCDプレーヤーにタイトルを登録する場合、100枚を超えたときは、一番古いCDタイトルが消されて、新しいCDのタイトルが登録されます。
● マルチCDプレーヤーに登録したタイトルは、CDを取り出しても登録されたままです。

1 (上) または (下)ボタンを押す

タイトルを入力したいCDを再生します

2 ⊙ (FUNCTION)ボタンを長く押す

タイトル入力画面が表示されます

「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力画面には切り換わりません。

3 (左) または (右)ボタンを押す

入力したい位置にカーソルを移動します

右に移動するとき : (右) ボタンを押す
左に移動するとき : (左) ボタンを押す

4 (上) または (下)ボタンを押す

入力したい文字を選びます

次の文字を選ぶとき：(上) ボタンを押す
前の文字を選ぶとき：(下) ボタンを押す

(上) または (下) ボタンを押して、入力する文字の種類を変更できます。

文字は、空白 (_)、アルファベット (A～Z)、記号 (!、+、#など)、数字 (0～9) の中から選ぶことができます。

5 (右) ボタンを押す

8文字目を点滅させます

6 (右) ボタンを押す

入力したタイトルが登録されます

入力位置の点滅が終わると、入力したタイトルが登録されます。

7 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

タイトル入力中（文字が点滅しているとき）にBANDボタンを押すと、タイトル入力画面が解除されて、ふだんの再生画面に戻ります。（入力中のタイトルは登録されません。）

CD 13 タイトルやアーティスト名を表示させる

CDに登録されている曲名（トラックタイトル）やディスク名（ディスクタイトル）などの情報を表示させることができます。
情報を表示させることができるディスクは、以下のとおりです。
●「CD TEXT」ディスク
●WMA／MP3／WAVファイルが記録されたディスク
●内蔵CDプレーヤーまたはマルチCDプレーヤーにディスクタイトルを入力したディスク
これらのディスクを再生中に、曲名などを一度に8文字まで表示させることができます。また、表示しきれていない文字を順にスクロールして表示させることもできます。

メモ

- 表示をタイトルに切り換えたときに、表示しきれていないタイトルを自動的に1回スクロール表示します。
- 本機の文字表示は、英数字のみに対応しています。
- タイトルが入力されていない場合は、表示が「NO XXXX (例： NO T-TTL)」になります。
- MP3をライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
  iTunes®は、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。

タイトルを表示させる

1 (DISPLAY)ボタンを押す

(DISPLAY) ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります

- 再生経過時間表示
- ディスクタイトル表示（あらかじめ登録しておいた場合）

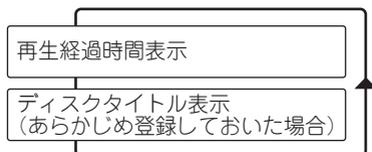
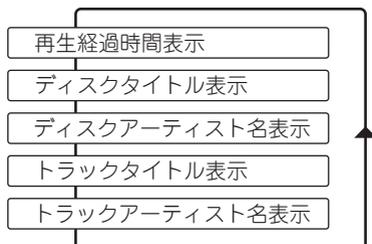
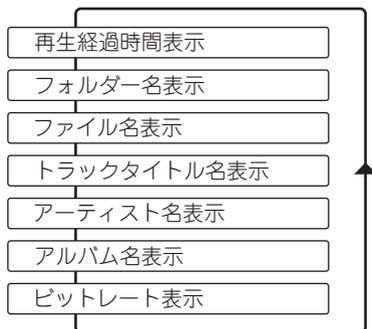
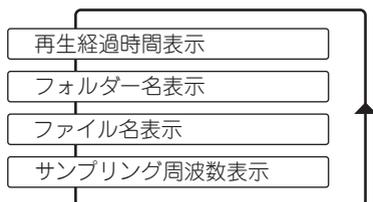
CD　m-CD　**(「CD TEXT」再生時)**

- 再生経過時間表示
- ディスクタイトル表示
- ディスクアーティスト名表示
- トラックタイトル表示
- トラックアーティスト名表示

CD-ROM　**(WMA／MP3再生時)**

- 再生経過時間表示
- フォルダー名表示
- ファイル名表示
- トラックタイトル名表示
- アーティスト名表示
- アルバム名表示
- ビットレート表示

(WAV 再生時)

再生経過時間表示
フォルダー名表示
ファイル名表示
サンプリング周波数表示

表示しきれていない文字を表示させる

(DISPLAY)ボタンを長く押す

表示しきれていない文字が順に表示されます

ラジオ 1 複数の放送局を一度に登録する

BSM

受信状態の良い放送局を探して、本機の［1］～［6］ボタンに自動的に登録させることができます。
登録した放送局は、［1］～［6］ボタンを押して呼び出します。(☞ **ラジオ ❸**)

BSMについて

● BSMとは、「Best Stations Memory（ベストステーションズ メモリー）」の略です。受信状態の良い複数の放送局を探し出し、登録する機能です。

1 BAND (BAND) ボタンを押す

登録するバンドを選びます
(☞ ここだけで ❸ 18ページ)

2 ⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

BSM設定画面が表示されます

3 ▭ (上) ボタンを押す

BSMが開始されます

登録動作中に「BSM」が点滅します。登録が完了すると「BSM」の点滅が終わり、1のボタンに登録した放送局を受信します。

▭ (下)ボタンを押すと、OFFになります。

4 BAND (BAND) ボタンを押す

ふだんの画面に戻ります

メモ

● 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。
● 登録された放送局は、プリセットチューニング (☞ **ラジオ ❸**) で呼び出します。

ラジオ 2 放送局を1局ずつ登録する

プリセットメモリー

本機の［1］～［6］ボタンに、お好みの放送局を1局ずつ登録できます。

1 BAND (BAND) ボタンを押す

登録するバンドを選びます
(☞ ここだけで ❸ 18ページ)

2 ▭ (左) または ▭ (右)ボタンを押す

登録させたい放送局を選びます

3 ［1］～［6］ボタンの1つを長く押す

放送局を登録します

押したボタンの番号（登録番号）が点滅します。登録が完了すると登録番号の点滅が終わり、登録した放送局を受信します。

メモ

● 登録した放送局は、プリセットチューニング (☞ **ラジオ ❸**) で呼び出します。

登録した放送局を選ぶ

プリセットチューニング

プリセットメモリー **(☞ ラジオ ❷)** やBSM **(☞ ラジオ ❶)** で登録した放送局を簡単に呼び出すことができます。

登録した放送局を直接呼び出すとき

(BAND) ボタンを押す

登録したバンドを選びます
(☞ ここだけで ❸ 18ページ)

1 ～ 6 ボタンの１つを押す

登録した放送局を直接呼び出します

登録した放送局を順番に呼び出すとき

(BAND) ボタンを押す

登録したバンドを選びます
(☞ ここだけで ❸ 18ページ)

2 (上) または (下)ボタンを押す

登録した放送局を順番に呼び出します

音の調節 1 音質調整について

音質調整

効果的な音質調整のために

本機は、より良い音響空間をつくり出すために、多彩な音質調整機能を搭載しています。お好みの車内音場になるように、音質調整機能を組み合わせて音を調節してください。

音質調整機能は、(EQ) ボタン、(AUDIO) ボタン、(SW) ボタンを押して使用します。

(EQ) ボタンを押して行う機能

イコライザーカーブを選択して、音を調節します。たとえば、「ロックを聞いているときはパワフルな音で」といったように、聞いている曲のジャンルに合ったイコライザーカーブを選ぶことで、曲の魅力を活かした音で聞くことができます。
選択したイコライザーカーブは、さらに細かく調節することもできます。

(SW) ボタンを短く押して行う機能

サブウーファーの設定を行います。別売のサブウーファーを組み合わせた場合に、そのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。

(SW) ボタンを長く押して行う機能

バスブースターの設定を行います。バスブースターのレベルを調節することで、サブウーファーの低音を強調させることができます。

(AUDIO) ボタンを短く押して行う機能

ラウドネスなど、さまざまな音質調整を行うことができます。

(AUDIO) ボタンを長く押して行う機能

イコライザーカーブを細かく調節して、お好みに合った音質に設定できます。

音の調節 2 イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、お好みの音質にできます。

交通情報を受信しているときは

● 交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブを選べません。

1 (EQ) ボタンを押す

(EQ) ボタンを押すごとに、次の順序でイコライザーカーブが切り換わります

Customについて

● **“**CUSTOM**”** には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブが登録されます。イコライザーカーブを調節すると、**“**CUSTOM**”** に登録されます。

EQ Flatについて

● **“**EQ FLAT**”** カーブでは、イコライザーによる音の補正は行いません。イコライザーの効果を確認するときに、設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて使用してください。

音の調節 3 オーディオ調整メニューの切り換えかた

「フェーダー／バランス（音量バランス調整）」「ラウドネス」などの音質調整機能は、オーディオ調節メニューを切り換えて行います。

1 ⊙ (AUDIO) ボタンを押す

⊙ (AUDIO) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります

- フェーダー／バランス（音量バランス調整）（☞音の調節 ❹）
- イコライザー調節（☞音の調節 ❺ 36 ページ）
- ラウドネス（☞音の調節 ❻ 36 ページ）
- サブウーファーの ON ／ OFF と位相切り換え（☞音の調節 ❽ 37 ページ）
- サブウーファー調節（☞音の調節 ❾ 38 ページ）
- HPF（ハイパスフィルター）（☞音の調節 ❿ 39 ページ）
- バスブースター（☞音の調節 ⓫ 40 ページ）
- FIE（フロントイメージエンハンサー）（☞音の調節 ⓬ 40 ページ）
- SLA（ソースレベルアジャスター）（☞音の調節 ⓭ 41 ページ）

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。また、約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。
- ラジオのFMを聞いているときは、SLAには切り換わりません。

音の調節 4 前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー／バランス

前後左右のスピーカーから出力される音量バランスを調節できます。
出力される音量のバランスが自然になるように、フェーダー（前後の音量）とバランス（左右の音量）を調節してください。

1 ⊙ (AUDIO) ボタンを押す

音量バランス調整メニューが表示されます
(☞ 音の調節 ❸)

2 (上) または (下)ボタンを押す

前後の音量バランス（FAD）を調節できます

前を強めるとき　：(上)ボタンを押す
後ろを強めるとき：(下)ボタンを押す
前後のバランスは、F15〜R15の範囲で調節できます。

3 (左) または (右)ボタンを押す

左右の音量バランス（BAL）を調節できます

右を強めるとき：(右)ボタンを押す
左を強めるとき：(左)ボタンを押す
左右のバランスは、L15〜R15の範囲で調節できます。

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 5 イコライザーカーブを調節する

あらかじめ用意されたイコライザーカーブのバンド（音帯域）それぞれに簡単な補正を加えることで、よりお好みに合った音質をつくり出すことができます。
設定したイコライザーカーブは、自動的にCUSTOMカーブに登録されます。

1 (EQ) ボタンを押す

調節したいイコライザーカーブを選びます

(☞ 音の調節 ❷ 34ページ)

2 ⊙ (AUDIO) ボタンを押す

イコライザー調節メニュー（EQ-L）が表示されます

3 (左) または (右)ボタンを押す

バンドを選びます

バンドは、LOW（低音）、MID（中音）、TRE（高音）の中から選ぶことができます。

4 (上) または (下)ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：(上) を押す
レベルを小さくするとき：(下) を押す

レベルは、－6～＋6の範囲で調節できます。

5 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 6 小さな音量でも聞きやすくする

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、聞きやすい音にします。

通常の音量でこの機能を使用した場合も、低音と高音が強調されて、よりダイナミックな音で音楽を楽しむことができます。

1 ⊙ (AUDIO) ボタンを押す

ラウドネスメニュー（LOUD）が表示されます

(☞ 音の調節 ❸ 35ページ)

2 (上) ボタンを押す

ラウドネス (LOUD) がONになります

(下) ボタンを押すと、OFFになります。

3 (左) または (右)ボタンを押す

ラウドネスの効果を選びます

LOW（弱）、MID（中）、TRE（強）の中から選ぶことができます。

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 7 サブウーファーを使う

本機のRCA出力端子には、別売のサブウーファーを接続させることができます。接続したサブウーファーの調節は、

① サブウーファーのON／OFFと位相切り換え
② サブウーファー調節

の2つのステップで行います。

「サブウーファーの設定について」**(☞ はじめに ❹ 10ページ)** を参照して、お手持ちのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。

メモ

● 「RCA外部出力設定 **(☞ 初期設定 ❻ 47ページ)**」をFULにしたときは、サブウーファーは調節できません。
● 「サブウーファーのON／OFFと位相切り換え **(☞ 音の調節 ❽)**」で、サブウーファーをOFFにした場合は、「サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節 **(☞ 音の調節 ❾ 38ページ)**」の操作はできません。

音の調節 8 サブウーファーのON／OFFと位相切り換え

サブウーファー

本機にサブウーファーを接続して使用する場合は、サブウーファーの設定をONにする必要があります。

ONにしたあと、サブウーファーから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えてください。

位相切り換えについて

● サブウーファーから出力される音の中には、フロント／リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相（音の波形）が反転（干渉）し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件によって位相を正相または逆相に切り換えてください。
正相：サブウーファーの音が、フロント／リアスピーカーと同時に出力される
逆相：サブウーファーの音が、フロント／リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1 (SW) ボタンを押す

サブウーファーメニュー (SUB W) が表示されます (☞ 音の調節 ❸ 35ページ)

メモ

● オーディオ調整メニューからでも、サブウーファーメニューを表示できます **(☞ 音の調節 ❸ 35ページ)**。

2 OFFになっている場合は、(上) ボタンを押す

サブウーファー (SUB W) がONになります

(下) ボタンを押すと、OFFになります。

次のページへ続く

音を調節する

<つづき>

サブウーファー

3 (左) または (右)ボタンを押す

サブウーファーの位相を切り換えます

正相 (NOR) を選ぶとき
：(右) ボタンを押す
逆相 (REV) を選ぶとき
：(左) ボタンを押す

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

● サブウーファーのON／OFFと位相切り換えメニューを表示させた状態でSW ボタンを短く押しても、サブウーファー調節メニューを表示できます。

音の調節 9 サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節

サブウーファーから出力される低音域（カットオフ周波数）と出力レベルを設定します。他のスピーカーから出力される低音域以外の音とのつながりが自然になるように設定してください。

カットオフ周波数について

● 50、63、80、100、125 (Hz) の中から選んだ周波数よりも上の周波数（もしくは下の周波数）の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。
サブウーファーのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調させることができます。

1 (SW) ボタンを押す

サブウーファー調節メニュー (80) が表示されます (☞ 音の調節 ❸ 35ページ)

メモ

● オーディオ調整メニューからでも、サブウーファー調節メニューを表示できます(☞ 音の調節 ❸ 35ページ)。

2 (左) または (右)ボタンを押す

カットオフ周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：(右) ボタンを押す
低い周波数を選ぶとき：(左) ボタンを押す

カットオフ周波数は、50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

3 (上) または (下)ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：(上) ボタンを押す
レベルを小さくするとき：(下) ボタンを押す

レベルは、－6～＋24の範囲で調節できます。

(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 10 低い音を出力しないようにする

カットオフ周波数50、63、80、100、125（Hz）の中から選んだ周波数よりも高い音を、フロントスピーカー、リアスピーカーから出力させる機能です。

フロントスピーカーとリアスピーカーからは高音だけを出力させて、サブウーファーからは低音だけを出力させることで、各スピーカーとサブウーファーの音のつながりを自然にすることができます。ハイパスフィルターの設定は、フロントスピーカー、リアスピーカーそれぞれで設定できます。

ハイパスフィルター (HPF) について

● ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数（カットオフ周波数）から下の音域（低音域）をカットして、高音域を通すフィルターです。

1 (AUDIO) ボタンを押す

ハイパスフィルター調節メニュー（HPF）が表示されます (☞ 音の調節❸ 35ページ)

2 (上) ボタンを押す

ハイパスフィルター（HPF）がONになります

(下) ボタンを押すと、OFFなります。

3 (左) または (右)ボタンを押す

カットオフ周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：(右) ボタンを押す
低い周波数を選ぶとき：(左) ボタンを押す

カットオフ周波数は、50、63、80、100、125 (Hz) の中から選ぶことができます。

(BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 11 低い音を強調させる

バスブースター

サブウーファーから出力される低音域の音を強調させることができます。バスブースターのレベルを上げることで、迫力のある低音をつくり出すことができます。

1 (SW) ボタンを長く押す

バスブースターメニュー（BASS）が表示されます

(☞ **音の調節 ❸ 35 ページ**)

メモ

● オーディオ調整メニューからでも、バスブースターメニューを表示できます(☞ **音の調節 ❸ 35 ページ**)。

2 (上) または (下)ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき：(上) ボタンを押す
レベルを小さくするとき：(下) ボタンを押す
レベルは、0～6の範囲で調節できます。

3 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 12 音の聞こえてくる方向を自然にする

リアスピーカーから出力される音を低音だけにすることができます。

低音域の音をリアスピーカーから出力させ、高音域の音をフロントスピーカーだけから出力させることで、音全体が前から聞こえてくるような車内音場をつくり出すことができます。ライブ会場のような音場を再現したいときに効果的です。

FIEについて

● FIEとは、「Front Image Enhancer（フロントイメージエンハンサー）」の略です。
100、160、250（Hz）から選んだ周波数以下の音域が後ろのスピーカーから出力されます。

1 (AUDIO) ボタンを押す

FIE メニュー (FIE) が表示されます

(☞ **音の調節 ❸ 35 ページ**)

メモ

● リアスピーカー出力の設定でリアスピーカー出力を“R-SP:S/W”に設定した場合、FIEの設定はできません。

2 (上) ボタンを押す

FIE が ON になります

(下) ボタンを押すと、OFF になります。

3 (左) または (右)ボタンを押す

FIE 周波数を選びます

高い周波数を選ぶとき：(右) ボタンを押す
低い周波数を選ぶとき：(左) ボタンを押す
周波数は、100、160、250 (Hz) の中から選ぶことができます。

FIE

4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

注意

- FIEをONにすると、後ろのスピーカーの音は低音だけになります。前後のスピーカーバランスを調節して、自然な音になるように調節してください。**(☞ 音の調節 ❹ 35ページ)**
- 2スピーカーシステムをお使いの方は、FIEをOFFにしてください。
- FIEをOFFにするときは、音量を小さくしてから行ってください。FIEをOFFにすると、後ろのスピーカーから低音以外の音も出力されるので、音量が急に大きくなります。

音の調節 13 各ソースの音量を揃える

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量に違いが出ないように設定できます。

SLAでは、FMを受信したときの音を基準に、それぞれのソースの音量を設定して、音量差を抑えることができます。

SLAについて

- SLAは、「Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)」の略です。SLAは、FMの音量を基準に、他のソースの音量を調節します。このため、FMを聞いているときはSLAには切り換わりません。
  AM、テレビ、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX1 (外部機器)、AUX2 (外部機器) のそれぞれの音量差を調節できます。

1 音量を調節したいソースに切り換えておく

SLAを行いたいソースに切り換えておきます

(☞ ここだけで ❶ 14ページ)

2 ⊙ (AUDIO) ボタンを押す

SLA調節メニュー (SLA) が表示されます

(☞ 音の調節 ❸ 35ページ)

3 (上) または (下)ボタンを押す

レベルを調節します

レベルを大きくするとき： (上) ボタンを押す
レベルを小さくするとき： (下) ボタンを押す

レベルは、−4〜＋4の範囲で調節できます。

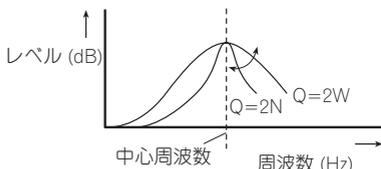
4 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節 14 イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザーカーブの高音、中音、低音それぞれに細かな修正を加えることで、お好みの音を再現した独自のイコライザーカーブをつくり出すことができます。

イコライザーカーブについて

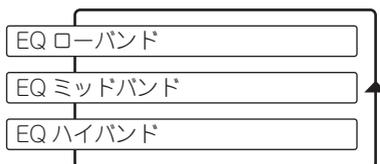
● イコライザーカーブは、レベル・中心周波数・Qファクター（傾き）の3つの要素を調節して決定します。イコライザーカーブのイメージは、下図のようになります。

イコライザーカーブの調節に、決まったルールはありません。音を聞きながら微調節を加えて、お好みの音質に調節してください。調節したイコライザーカーブは、自動的にCUSTOMカーブに登録されます。

1 (AUDIO) ボタンを長く押す

イコライザー詳細設定メニューが表示されます

2 (AUDIO) ボタンを押す

(AUDIO) ボタンを押すごとに、次の順序でバンド（周波数帯域）が切り換わります

EQ ローバンド → EQ ミッドバンド → EQ ハイバンド → EQ ローバンド

3 (左) または (右)ボタンを押す

音の中心になる周波数を選びます

表示（中心周波数［Hz］）	選ばれているバンド
40、80、100、160のいずれか	EQローバンド
200、500、1k、2kのいずれか	EQミッドバンド
3k、8k、10k、12kのいずれか	EQハイバンド

4 (上) または (下) ボタンを押す

選んだバンドのQファクター（イコライザーカーブの傾き）を選びます

傾きを強めるとき：(上)ボタンを押す
傾きを弱めるとき：(下) ボタンを押す

Qファクターついて

● Qファクターは、2Nが最も急な傾きになり、1N、1W、2Wの順で傾きが緩やかになります。

5 (BAND) ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

初期設定 1 本機を快適に使うために

外部機器を接続したり、リアスピーカー出力やRCA外部出力を使ったりするときは、初期設定メニューで設定します。また、時計合わせも初期設定メニューで行います。

初期設定 2 初期設定メニューの切り換えかた

初期設定メニューは、電源をOFFにした状態で操作します。

1 SOURCE／VOLUMEを長く押す

本機の電源をOFFにします

2 もう一度SOURCE／VOLUMEを長く押す

初期設定メニューに切り換わります

3 ⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

⊙ (FUNCTION) ボタンを押すごとに、次の順序で機能が切り換わります

メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、BANDボタンを押します。

初期設定 3 時計を合わせる

時計調整

本機のディスプレイに時計を表示するために、時計を合わせておきます。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた(☞ 初期設定 ❷)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 ⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

時計調整モードが表示されます

3 (左) または (右)ボタンを押す

時または分を選びます

押すごとに、時と分が切り換わります。

4 (上) または (下)ボタンを押す

時刻を合わせます

時刻を進めるとき　：(上) ボタンを押す
時刻を戻すとき　　：(下) ボタンを押す

分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

5 (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

初期設定 4 外部機器を使う

外部機器設定

市販のポータブル機器やVTRなどの機器を2台まで接続することができます。接続した機器の音声は、外部機器（AUX1、AUX2）ソースとしてスピーカーから出力させることができます。

外部機器を接続した場合は、初期設定メニューで、それぞれのAUX接続の設定をONにしてください。

外部機器との接続について

外部機器の接続には、次の3通りの方法があります。

①市販のミニプラグを使用する場合 (AUX1)
② 別売のRCA／IP-BUSインターコネクターを使用する場合 (AUX2)
③IP-BUSを使用する場合 (AUX2)
（パイオニア製ナビゲーションユニットのようにIP-BUS出力を持つパイオニア製品をつなげる場合）

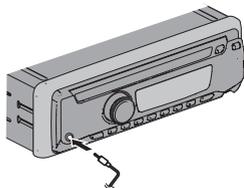
メモ

● AUX2は、②と③のどちらか一方の接続方法でのみ使用できます。（ 両方の接続を同時につなげることはできません。）

次のページへ続く

<つづき>

①市販のミニプラグを使用する場合

本機のAUX1入力端子（3.5 ø）に、市販のミニプラグを差し込んで接続します。この場合、接続した外部機器は、AUX1ソースとして認識されます。

② 別売のRCA／IP-BUSインターコネクターを使用する場合

接続する外部機器にRCA出力がある場合、別売のRCA／IP-BUSインターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機のIP-BUS入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2ソースとして認識されます。詳しくは、RCA／IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

③IP-BUSを使用する場合（パイオニア製ナビゲーションユニットなどを接続する場合）

別売のIP-BUSケーブル（「CD-IP600」など）を使用して、本機のIP-BUS入力に接続します。接続したナビゲーションユニットはAUX2ソースとして認識され、音声のみが出力されます。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (☞ 初期設定 ❷ 44ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 ⊙ (FUNCTION) ボタンを押す

外部機器設定モード（AUX1 または AUX2) が表示されます

3 (上) ボタンを押す

外部機器（AUX）の設定がONになります

(下) ボタンを押すと、外部機器(AUX)の設定がOFFになります。

4 BAND (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

メモ

● 外部機器の名称を変更することもできます。接続した機器に合わせて名称を変更しておくと便利です。外部機器の名称を変更するには **(☞ 便利な機能 ❹ 49ページ)** を参照してください。

初期設定 5 リアスピーカー出力を設定する

リアスピーカー出力の設定

リアスピーカー出力に接続するスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法を切り換えます。

①フルレンジスピーカーを接続するとき：
R-SP :FULに設定してください

②サブウーファーを接続するとき：
R-SP :S/Wに設定してください

リアスピーカー出力の設定を“R-SP :SW”に切り換えると、リアスピーカー端子にサブウーファーを直接接続することができます。

1 初期設定メニューを表示する

「初期設定メニューの切り換えかた (☞ 初期設定 ❷ 44ページ)」を参照して、初期設定メニューを表示します

2 (FUNCTION) ボタンを押す

リアスピーカー出力設定モード（R-SP) が表示されます

3 (上) または (下) ボタンを押す

リアの出力方法を切り換えます

FUL　：(上) ボタンを押す
（フルレンジスピーカーを接続するとき）
S/W　：(下) ボタンを押す
（サブウーファーを接続するとき）

4 BAND (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

初期設定 6 RCA外部出力から出力される信号を選ぶ

RCA外部出力設定

本機のRCA外部出力に外部アンプを接続して、フルレンジスピーカーまたはサブウーファーを使用できます。接続するスピーカーに応じて、RCA外部出力から出力される信号を選んでください。

①サブウーファーを接続したとき：
P/O :S/Wに設定してください

②フルレンジスピーカーを接続したとき：
P/O :FULに設定してください

リア出力にサブウーファーをつなげたときは

●「リアスピーカー出力の設定 (☞ **初期設定 ❺**)」でリアスピーカー出力を“R-SP:S/W”に設定したときは、RCA外部出力の設定はできません。

1 リアの出力方法をR-SP:FULにする

「リアスピーカー出力を設定する (☞ 初期設定 ❺)」を参照して、リアスピーカー出力の設定をFULに設定します

2 (左) または (右)ボタンを押す

RCAの出力方法（P/O）を切り換えます

S/W　：(左) ボタンを押す
（サブウーファーを接続するとき）
FUL　：(右) ボタンを押す
（フルレンジスピーカーを接続するとき）

3 BAND (BAND) ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

便利な機能 1 その他の便利な機能について

本機には、時計を表示する機能や、交通情報をワンタッチで受信する機能など、便利な機能が備わっています。

便利な機能 2 時計を表示する

時計表示

本機のディスプレイに、時計を表示できます。時計は、本機の電源がONのときもOFFのときも表示させることができます。

時計表示について

● 本機に時計を表示させる前に、時計を合わせる必要があります。「時計を合わせる **(☞ 初期設定❸ 45ページ)**」を参照して、時計を合わせてください。

1 ⊖ (TI) ボタンを長く押す

時計が表示されます

もう一度 ⊖ (TI) ボタンを長く押すと、時計表示が解除されます。

メモ

● 本機の電源がONのときは、時計表示中に他の操作をすると、時計表示は一度解除されます。この場合、25秒後に時計表示に戻ります。

便利な機能 3 交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

高速道路などで放送されている交通情報ラジオ（AM 1 620kHz、AM 1 629kHz）を、ワンタッチで受信できます。交通情報ラジオは、電源がOFFになっているときやラジオ以外のソースを選んでいるときでも、ワンタッチで受信できます。

1 (TI) ボタンを押す

AM 1 620 kHzの交通情報を受信します

2 (左) または (右)ボタンを押す

交通情報の周波数を切り換えます

1 620 kHzを選ぶとき
　：(左)ボタンを押す
1 629 kHzを選ぶとき
　：(右)ボタンを押す

3 (TI) ボタンを押す

交通情報の受信を解除します

交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。
- 交通情報を受信すると、自動的に交通情報用のイコライザーカーブに切り換わります。交通情報の受信をやめると、イコライザーカーブはもとの状態に戻ります。
- 交通情報を受信しているときは、イコライザーの調節はできません。

便利な機能 4 外部機器の名称を入力する

AUX (外部機器) 名称入力

本機に外部機器（AUX）を接続したときに、その機器の名称を本機に入力して、ディスプレイに表示させることができます。

たとえば、VTRを外部機器として本機に接続した場合は、初期状態で表示される“AUX1”または“AUX2”を“VTR”に変更して表示させることができます。

1 SOURCE／VOLUMEを押す

ソースをAUX (外部機器) にします

(☞ ここだけで ❶ 14ページ)

2 ⊙ (FUNCTION) ボタンを長く押す

AUX (外部機器) 名称入力モードが表示されます

3 AUX (外部機器) の名称を入力して記憶させる

CDタイトル入力 **(☞ CD ⓬ 28ページ)** の手順3～6を参照し、同様の操作でAUX (外部機器) の名称を入力してください。

メモ

- 外部機器の名称は8文字まで入力できます。

便利な機能

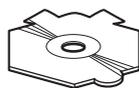
その他 1 CDの正しい使いかた

使用できるCDについて

● 下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式 デジタル オーディオ ディスク）をご使用ください。

● 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。

● ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。

● 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。

● 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R／CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。

● パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）

● 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R／CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。

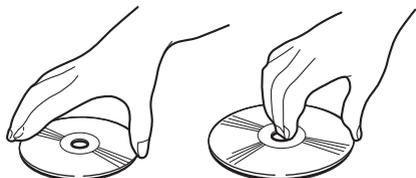
● CD-R／CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ(CD-DA)再生時）

● ファイナライズされていないCD-R／CD-RWディスクには対応していません。

● CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。

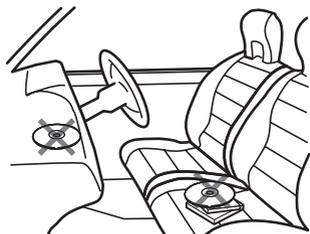
● CD-R／CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

取り扱い上のご注意

● CD は、下図のように、信号記録面 (虹色に光っている面) をさわらないように持ってください。

● CD にキズを付けないでください。

● CD にシールなどを貼り付けないでください。

保管上のご注意

● 直射日光の当たるところや高温になるところには、CD を保管しないでください。

● CD がそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

● CD が汚れたときは、柔らかいきれいな布でCD の内周から外周方向へ軽くふいてください。

● アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

CD 再生の環境について

● 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。

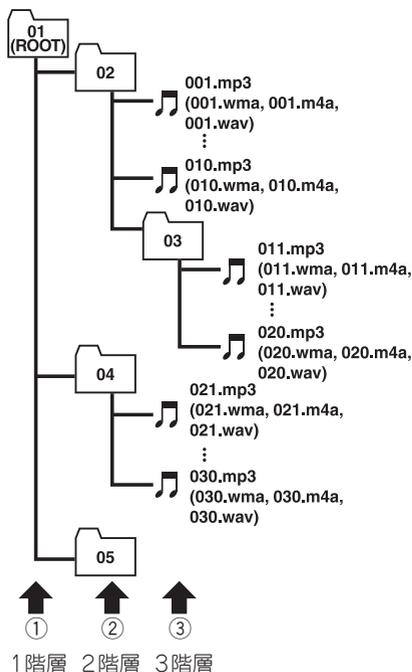
● 寒いとき、ヒーターを入れた直後に CD 再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常に再生できないことがあります。
このようなときは、1 時間ほど放置して自然に露が取れるのをお待ちください。CD に付いた露は柔らかい布でふいてください。

メモ

● 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

その他 2 WMA／MP3／WAVファイルについて

フォルダーとWMA／MP3／WAVファイルについて

● WMA／MP3／WAVファイルを収録したCD-R／CD-RW／CD-ROMのイメージは下図のようになります。

● 本機はWMA／MP3／WAVファイルが記録されたCD-R／CD-RW／CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット（Joliet、Romeo）に準拠して記録されたディスクが再生可能です。（☞ その他 ❻ 60ページ）

● 本機はマルチセッション（☞ その他 ❻ 60ページ）方式で記録したディスクの再生に対応しています。

● パケットライト（☞ その他 ❻ 60ページ）には対応していません。

● m3u（☞ その他 ❻ 61ページ）のプレイリストには対応していません。

● MP3i（MP3 interactive）フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。

● ファイル名の最大表示文字数は、拡張子（.mp3、.wma、.wav）を含めて64文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数も64文字までです。

● 拡張フォーマット（Romeo）（☞ その他 ❻ 60ページ）に準拠して記録されたファイルの場合、先頭から64文字までの表示に対応しています。

● 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。

● 曲間（トラック間）にブランクがないCDを、WMA／MP3／WAVファイルとしてCD-R／CD-RW／CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。

メモ

- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CDディスクに、WMA／MP3／AAC／WAVファイルと音楽データ（CD-DA）が混在しているときは、WMA／MP3／WAVファイルと、音楽データ（CD-DA）を切り換えることができます**（☞ ここだけで ❷ 17ページ）**。
  WMA／MP3／WAVファイルと、音楽データ（CD-DA）を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA／MP3／WAVファイルを含まないフォルダーは認識しません。（フォルダー番号を表示せず、スキップします。）
- 8階層までのWMA／MP3／WAVファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
- ディスクに含まれるフォルダーの合計が99個まで再生可能です。

WMAとは？

- 「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。**（☞ その他 ❻ 61ページ）**

ご注意

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含むWMAファイルを再生する場合、再生が始まるまでに多少の時間がかかることがあります。

その他2 WMA／MP3／WAVファイルについて（つづき）

再生できるWMAファイルについて

●WMAファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子（.wma）を付けてください。

● 本機は、拡張子（.wma）が付いているファイルをWMAファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMAファイル以外には拡張子（.wma）を付けないでください。

● 本機では、Windows Media Player Ver.7／7.1／8／9／10を使用してエンコードしたWMAファイルを再生することができます。

● 再生可能なWMAファイルのサンプリング周波数は32／44.1／48 kHzです。

● 一般的にWMAファイルは、ビットレート （☞ その他❻ 60ページ） が高いほど音質は良くなります。本機は、CBR（固定ビットレート）では48kbps～320kbps、VBR（可変ビットレート）では48kbps～384kbpsのビットレートで記録されたWMAファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

● デジタル著作権保護（DRM）で保護されたファイルを再生したときは、“SKIPPED”と表示され、そのファイルの再生がスキップされます。

● ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護（DRM）で保護されている場合は、“PROTECT”と表示され、そのディスクは再生できません。

● この製品は、下記の形式には対応していません。
- ・Windows Media Audio 9 Professional（5.1ch）
- ・Windows Media Audio 9 Lossless（可逆圧縮）
- ・Windows Media Audio 9 Voice

MP3とは？

●「MPEG Audio Layer 3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。
（☞ その他❻ 61ページ）

再生できるMP3ファイルについて

● MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子（.mp3）を付けてください。

● 本機は、拡張子（.mp3）が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3ファイル以外には拡張子（.mp3）を付けないでください。

● ID3 tag （☞ その他❻ 60ページ） のVer1.0／1.1／2.2／2.3／2.4のアルバム名（ALBUM TITLEとして表示）、曲名（TRCK TITLEとして表示）、およびアーティスト名（ARTIST NAMEとして表示）の表示に対応しています。
なお、ID3 tagのVer1.XとVer 2.Xが混在している場合は、Ver 2.Xが優先されます。

● サンプリング周波数が32／44.1／48 kHzのMP3ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。（なお、再生可能なサンプリング周波数は16／22.05／24／32／44.1／48 kHzです。）

● 一般的にMP3ファイルは、ビットレート （☞ その他❻ 60ページ） が高いほど音質は良くなります。本機は、8kbps～320kbpsのビットレートで記録されたMP3ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

WAVとは？

●「Waveform」の略で、Windows®での標準音声フォーマットです。
（☞ その他❻ 61ページ）

再生できるWAVファイルについて

● WAVファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子（.wav）を付けてください。
● 本機は、拡張子（.wav）が付いているファイルをWAVファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAVファイル以外には拡張子（.wav）を付けないでください。
● 本機は、LPCM形式およびMS ADPCM形式でエンコードされたWAVファイルの再生に対応しています。
● 本機は、LPCM形式では16／22.05／24／32／44.1／48 kHz、MS ADPCM形式では22.05／44.1 kHzのサンプリング周波数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。
● 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
● 一般的にWAVファイルは、量子化ビット数（（☞ その他❻ 60ページ））が大きいほど音質は良くなります。本機は、LPCMでは8／16 bit、MS ADPCMでは4 bitの量子化ビット数で記録されたWAVファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きい量子化ビット数で記録されたディスクの使用を推奨します。

その他 3 故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら
修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

それでも直らないときは
「保証書とアフターサービス」（☞ **その他 ❺ 59ページ**）をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。（☞ **取付説明書**）
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。 （☞ **取付説明書**）
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。 （☞ **ここだけで❶ 15ページ**）
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 （☞ **はじめに❺ 13ページ**）
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 （☞ **音の調節 ❹ 35ページ**）
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 （☞ **音の調節 ❹ 35ページ**）
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 （☞ **音の調節 ❹ 35ページ**）

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 （☞ **ここだけで❸ 19ページ**）
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 （☞ **ここだけで❸ 19ページ**）
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 （☞ **ここだけで❸ 19ページ**）

CD、WMA／MP3／WAV

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。 CDの再生が途中で止まる。 CDを再生できない。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDに交換してください。良くなれば、CDの不良です。
	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 **(☞ その他❶ 51ページ)**
	CDにくもりや水滴が付いている。	CDのくもりや水滴をふき取ってください。 **(☞ その他❶ 51ページ)**
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。**(☞ ここだけで❷ 16ページ)**
CDを再生できない。 CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、CD EJECTボタンを2秒以上押すと、ディスクを取り出すことができます。 もう一度、入れ直してください。

その他4 こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA／MP3／WAVのエラー表示

メッセージ（エラー番号）	原因	処置
「ERROR-11」「ERROR-12」「ERROR-17」「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。（☞ その他❶ 51ページ）
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-15」「ERROR-17」	CD-R／CD-RWを録音しないまま使用している	CD-R／CD-RWは録音してからお使いください。
「ERROR-22」「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CDを交換してください。
「ERROR-10」「ERROR-11」「ERROR-12」「ERROR-15」「ERROR-17」「ERROR-30」「ERROR-50」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「NO AUDIO」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA／MP3／WAVファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。
「SKIPPED」	デジタル著作権保護（DRM）で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護（DRM）で保護されていないファイルを再生してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護（DRM）で保護されている。	CDを交換してください。

メモ

● マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

その他 5

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。
保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

その他 6 用語解説

パケットライト

フロッピーディスクやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む記録方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。この数字が大きいほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3など) での比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。（MP3とWMAのように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。）

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROM、CD-R、およびCD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リニアPCM (LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式で、「Linear Pulse Code Modulation」の略です。音楽CDは、44.1 kHz／16 bitで記録されています。

量子化ビット数

量子化ビット数は、音質を定義する要素の1つです。この数が大きいほど、音質が良くなります。ただし、量子化ビット数が大きくなるほどデータサイズが大きくなるため、より多くの記憶容量が必要となります。

ID3 tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報には、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1：

ファイル名は、8.3形式（名前は半角英文大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字）

レベル2：

ファイル名は、最大31文字（区切り文字、“.”と拡張子を含む）で、各フォルダーの階層は8つ以下

拡張フォーマット

Joliet：ファイル名は、最大で64文字

Romeo：ファイル名は、最大で128文字

m3u

プレイリストファイルの拡張子（.m3u）で、「WINAMP」というソフトで作成したプレイリストに付きます。

MP3（エムピースリー）

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO（国際標準化機構）のワーキンググループ（MPEG）が定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1／10のサイズに圧縮することができます。

MS ADPCM

「Microsoft adaptive differential pulse code modulation」の略で、米国Microsoft Corporationのマルチメディア・ソフトウェアで使用される信号記録方式です。

VBR（ブイビーアール）

「Variable Bit Rate（可変ビットレート）」の略です。一般的にはCBR（固定ビットレート）が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変にすることで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WAV

「Waveform」の略で、Windows® での標準音声フォーマットです。

WMA（ダブリューエムエー）

「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他（付録）

その他 7 おもな仕様

■ CDプレーヤー部

形式 ： コンパクトディスク オーディオシステム
使用ディスク ： コンパクトディスク
信号
フォーマット： サンプリング周波数： 44.1 kHz
量子化ビット数： 16ビット直線
周波数特性 ： 5～20 000 Hz（±1 dB）
S/N ： 94 dB（1 kHz）
（IHF-A ネットワーク）
ダイナミック
レンジ： 92 dB（1 kHz）
チャンネル数 ： 2（ステレオ）
MP3
デコーディング
フォーマット ： MPEG-1 & 2 Audio Layer-3
WMA
デコーディング
フォーマット ： Ver. 7、7.1、8、9、10 （2 ch audio）（Windows Media Player）
WAV
シグナル
フォーマット ： Linear-PCM、MS ADPCM

■ FMチューナー部

受信周波数帯域： 76.1～89.9 MHz
実用感度 ： 8 dBf（0.7 μV/75 Ω、モノラル、S/N ： 30 dB）
S /N 50 dB
感度： 10 dBf
（0.9 μV/75 Ω、モノラル）
S /N ： 75 dB（IHF-A ネットワーク）
高調波歪率 ： 0.3 %
（65 dBf入力、1 kHz、ステレオ）
0.1 %
（65 dBf入力、1 kHz、モノラル）
周波数特性 ： 30 ～ 15 000 Hz（±3 dB）
ステレオ
セパレーション ： 45 dB（65 dBf入力、1 kHz）

■ AMチューナー部

受信周波数帯域 ：522～ 1 629 kHz（9 kHz）
実用感度 ：18 μV（S/N ： 20 dB）
S／N ：65 dB（IHF-A ネットワーク）

■ アンプ・オーディオ部

最大出力 ：50 W×4
50 W×2 ch/4 Ω + 70 W×1 ch/2 Ω（for サブウーファー）
定格出力 ：22 W×4
（50～15 000 Hz、5 % THD）
負荷
インピーダンス：4 Ω
（4～8 Ω 使用可能）
イコライザー
（13バンド
グラフィック
イコライザー）：（LOW）
周波数: 40/80/100/160 Hz
Qファクター: 0.35/0.59/0.95/1.15
（+6 dBブースト時）
調整幅: ± 12dB
（MID）
周波数: 200/500/1K/2K Hz
Qファクター: 0.35/0.59/0.95/1.15
（+6 dBブースト時）
調整幅: ± 12dB
（HIGH）
周波数: 3.15K/8K/10K/12.5K Hz
Qファクター: 0.35/0.59/0.95/1.15
（+6 dBブースト時）
調整幅: ± 12dB

ラウドネス
コンター　：LOW　：3.5 dB（100 Hz）
　　　　　　　　　3 dB（10 kHz）
　　　　　MID　：10 dB（100 Hz）
　　　　　　　　　6.5 dB（10 kHz）
　　　　　HIGH　：11 dB（100 Hz）
　　　　　　　　　11 dB（10 kHz）
　　　　　　　　　（ボリューム：－30 dB）

ハイパス
フィルター　：周波数　：
　50/63/80/100/125 Hz
　スロープ　：－12 dB/oct.

サブウーファー
出力　：周波数　：
　50/63/80/100/125 Hz
　スロープ　：－18 dB/oct.
　調整幅　：＋6 ～－24 dB
　位相　：Normal/Reverse

バスブースター：調整幅　：＋12～0 dB

■ 共通部

使用電源　：DC 14.4 V
　（10.8 ～ 15.1 V 使用可能）
アース方式　：マイナスアース方式
最大消費電流　：10.0 A
外形寸法
（取付寸法）：178（W）×50（H）×162（D）mm
（ノーズ寸法）：170（W）×46（H）×14（D）mm
質 量　：1.3 kg（コードユニット含まず）

■ 付属品

コードユニット：1
取付ネジ類　：1式
取扱説明書　：1
取付説明書　：1
安全上のご注意：1
保証書　：1
ご相談窓口・
修理窓口のご案内：1

メモ

● 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

パイオニア商品の修理・お取り扱い (取り付け・組み合わせなど) については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『**故障かな？と思ったら**』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

●パイオニアホームページ：お客様サポート　*http://www.pioneer.co.jp/support/index.html*
(商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など)

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>
市外局番「0070」で始まる フリーフォン、および「0120」で始まる フリーダイヤル は、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、土曜・日曜・祝日　9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

●カーオーディオ／カーナビゲーション商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口
：フリーフォン　**0070-800-8181-11**
：【一般電話】　**03-5496-8016**
●ファックス受付　：　**03-3490-5718**

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合せください。

部品受注センター

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、土曜・日曜・祝日　9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話　：フリーダイヤル　**0120-5-81095**
　　　：【一般電話】　**0538-43-1161**
ファックス　：フリーダイヤル　**0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ (沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ)

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付　月曜～金曜　9：30～19：00、土曜・日曜・祝日　9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話　：フリーダイヤル　**0120-5-81028**（ゴー パイオニア）
　　　：【一般電話】　**03-5496-2023**
ファックス　：フリーダイヤル　**0120-5-81029**

沖縄サービスステーション (沖縄県のみ)

受付　月曜～金曜　9：30～18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話　：【一般電話】　**098-879-1910**
ファックス　：　**098-879-1352**

パイオニア株式会社
〒153-8654　東京都目黒区目黒 1-4-1

< KNNZX > < 05H00000 > < YRA5027-A/U >